

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善									
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R3年度 予算額 (千円)	R4年度 予算額 (千円)	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R2年度 事業 評価	R4年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R2年度 局施策 評価	R4年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)				
						指標名等	現状値 (基準値)	R2年度	R3年度	R4年度										中期 目標			
II-1-(4)-④ 総合的な災害 対策の推進	1	① ③	海岸（高潮） 事業	整備課	災害に強い都市づくりの一環として、高潮等の災害から市民の生命や財産を守るために、臨海部において護岸整備を行う。	新門司北地区北護岸整備による後背地防護面積	—	目標 単年度目標 設定なし	実績 —	達成率 —	—	—	—	—	継続	3,000	30,000	増額	5,650	順調	本市の高潮対策の重要性を継続して国に伝え、予算の確保に努めている。 高潮災害の予防対策として、引き続き護岸整備を進め、早期完成を目指す。	順調	新門司北地区は、過去に高潮の被害を受けている地区であることから、市民や立地企業の安全・安心を確保するためにも、本市の高潮対策の重要性を継続して国に伝え、予算を確保し、早期完成を目指す。
	2	①	<新>海岸保全施設老朽化対策事業	整備課	老朽化が進む北九州港の海岸保全施設について、地域の安全・安心を守るため計画的に維持管理を行い、施設の機能維持を図る。	海岸保全施設の機能維持	—	目標 —	実績 —	達成率 —	—	—	—	—	—	—	—	34,000	—	5,650	—	点検結果を踏まえ、早急に対応が必要な施設から補修・改修を進める。 令和4年度は1施設の補修・改修を行う。	—
II-1-(4)-⑤ 公共施設などの耐震化の推進	3	⑦	国直轄事業負担金（耐震強化岸壁整備）	計画課	大規模震災時にも物資等の海上輸送機能を確保するため、耐震強化岸壁を整備する。	臨海部防災拠点を構成する耐震強化岸壁の整備（西海岸地区）	—	目標 単年度目標 設定なし	実績 —	達成率 —	—	—	—	—	継続	0	325,000	増額	2,900	順調	事業主体である国は令和2年度補正予算より、鋭意予算化を行っている。今後も国に対して事業の早期完了を要望し、国との連携を密にし、事業の進捗を図っていく。	順調	本市では耐震強化岸壁を5箇所整備する計画である。現在、砂津地区、新門司地区の整備が完了している。残る3箇所のうち、西海岸地区、ひびきコンテナターミナルにおいては、国が事業主体になることから、早期完了、早期着手の要望を引き続き行い、国との連携を密にし、事業の進捗を図る。

		【Plan】 計画 / 【Do】 実施										← 【Check】 評価 / 【Action】 改善										
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の方向性	R3年度 予算額 (千円)	R4年度 予算額 (千円)	事業費の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R2年度 事業 評価	R4年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R2年度 局施策 評価	R4年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)			
						指標名等	現状値 (基準値)	R2年度	R3年度	R4年度										中期 目標		
IV-1- (3)-① 成長性、経済波及効果の高い産業の重点的誘致	4	⑦ ⑧ ⑨ ⑬	響灘洋上風力発電拠点化推進事業	エネルギー産業拠点化推進課	<p>港湾空港局では、響灘地区のポテンシャルを活かし、平成23年度より風力発電関連産業の集積を図る『グリーンエネルギーポートひびき』事業を進めており、本事業の更なる推進にあたっては、今後拡大が見込まれる洋上風力発電に対応した環境整備が急務である。</p> <p>そこで、響灘洋上ウインドファームの形成をインセンティブに関連産業の集積を進め、国内における“風力発電関連産業の総合拠点”の形成を目指す。</p>	響灘地区総合拠点の産業用地利用率	31.7% (R2年度)	目標 単年度目標 設定なし	実績 31.7 %	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	80% (R6年度)	継続	1,096,650	1,758,900	増額	119,500	順調	<p>響灘洋上ウインドファーム事業については、令和4年度の着工に向けて、着実に事業が進むよう、引き続き、事業者等との連絡、調整、協議を行う。</p> <p>また、国と市が行っている基地港湾の整備については、響灘洋上ウインドファーム事業の工事に間に合うよう、確実に工事を進めていく。</p> <p>さらに令和4年度は、国内の洋上風力事業の普及拡大に合わせて、基地港湾を継続して利用してもらえるよう西日本地域の洋上ウインドファームの市場開拓を継続するとともに、産業拠点化に向け、企業誘致や地元企業のサプライチェーンへの参入支援などに取り組む。</p>	順調	<p>風力発電関連産業の総合拠点形成に向けては、まず、響灘洋上ウインドファーム事業と基地港湾整備を着実に進め、西日本地域のウインドファーム事業を確実に取り込むことで、基地港湾の将来に向けた継続的な利用、関連産業の定着を図る必要がある。</p> <p>また、産業拠点化を進めることで、更なる港湾の活性化や雇用促進を図ることができるため、積極的に取り組んでいく。</p> <p>企業誘致及び埋立地整備事業については、効果的な企業立地活動を継続すると共に、残りの分譲地が少なくなっていることから、マリナクロス新門司については、新たな分譲地の確保に向け整備を行う。</p> <p>また、響灘地区については、未利用の国有地の有効活用を進める。</p>
						響灘地区総合拠点利用ファーム数（予定含む）	1案件 (R2年度)	目標 単年度目標 設定なし	実績 1 案件	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	5案件 (R6年度)									
IV-4- (3)-① 国内外からの観光の推進	6	⑧	クルーズ船の誘致	クルーズ・交流課	<p>コンベンションへの出展や、代理店や船社への情報提供による、国内外のクルーズ船の寄港を促進する。また、クルーズ船寄港時にはおもてなしイベント等を展開する。</p>	クルーズ船の寄港数	年間寄港回数：12回 (H28年度)	目標 45 回	実績 1 回	40 回	20 回	45回 (R7年度)	継続	16,700	18,800	増額	23,450	遅れ	<p>従来は外国船が寄港の中心であったが、コロナ禍の中で邦船の寄港予定も増えている。</p> <p>市況の回復や外国船の受入開始時期を見ながら、船社や旅行会社等に積極的な誘致活動を行う。</p>	やや遅れ	<p>従来は外国船が寄港の中心であったが、コロナ禍の中で邦船の寄港予定も増えている。</p> <p>市況の回復や外国船の受入開始時期を見ながら、船社や旅行会社等に積極的な誘致活動を行う。</p>	
						達成率 2.2 %																
IV-1- (3)-② 成長性、経済波及効果の高い産業の重点的誘致	5	⑧ ⑨	企業誘致及び埋立地整備事業	物流振興課	<p>臨海部産業団地の分譲を促進するため、充実した港湾インフラや「環境未来都市」「グリーンアジア国際戦略総合特区」など本市の強みを活かすことのできる企業に対し、積極的に誘致活動を行う。</p>	臨海部産業用地への企業立地件数（H26年度以降の累計）	4件 (H26年度)	目標 41 件	実績 43 件	42 件	43 件	1件増 (毎年度)	継続	439,508	431,721	維持	22,700	順調	<p>外部環境に成果が左右されるが、本市の港湾を利用する企業に絞込んだ効率のよい企業立地活動を行う。</p> <p>また、マリナクロス新門司については企業の誘致が順調であり、旺盛な土地需要に応える為、新たな分譲地の確保に向け整備を行う。響灘地区については、企業の土地需要に応えるため、未利用の国有地の有効活用を進める。</p>	順調	<p>また、響灘地区については、未利用の国有地の有効活用を進める。</p>	
						達成率 104.9 %																

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善						
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の方向性	R3年度 予算額 (千円)	R4年度 予算額 (千円)	事業費の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R2年度 事業 評価	R4年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R2年度 局施策 評価	R4年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	
						指標名等	現状値 (基準値)	R2年度	R3年度	R4年度										中期 目標
IV-4-(3)-②にぎわいづくりによる集客交流産業の拡充	7	⑧	港のにぎわい推進	クルーズ・交流課	広く市民に港や海に親しんでもらい、北九州港の賑わいを創出するため、北九州港内で開催される各種イベントを実施する。	イベント参加者の満足度	80%以上 (H26年度)	目標 90 % 以上	実績 97.4 %	達成率 108.2 %	イベント参加者の満足度 90%	継続	32,724	28,449	減額	8,650	順調	市民に海や港に親しみを 持ってもらえるようなイベント 等を実施して参加者の満足 度を高め、「みなど」を核と したにぎわい創出を図る。	順調	市民に海や港に親しみを 持ってもらえるようなイベン ト等を実施して参加者の満足 度を高め、「みなど」を核と したにぎわい創出を図る。
V-1-(3)-②産業拠点の整備	8	⑧ ⑦	企業誘致及び埋立地整備事業	物流振興課	臨海部産業団地の分譲を促進するため、充実した港湾インフラや「環境未来都市」「グリーンアジア国際戦略総合特区」など本市の強みを活かすことのできる企業に対し、積極的に誘致活動を行う。	臨海部産業用地への企業立地件数 (H26年度以降の累計)	4件 (H26年度)	目標 41 件	実績 43 件	達成率 104.9 %	1件増 (毎年度)	継続	439,508	431,721	維持	22,700	順調	外部環境に成果が左右されるが、本市の港湾を利用する企業に絞り込んだ効率のよい企業立地活動を行う。 また、マリナクロス新門司については企業の誘致が順調であり、旺盛な土地需要に応える為、新たな分譲地の確保に向け整備を行う。響灘地区については、企業の土地需要に応えるため、未利用の国有地の有効活用を進める。	順調	効果的な企業立地活動を継続すると共に、残りの分譲地が少なくなっていることから、マリナクロス新門司については、新たな分譲地の確保に向け整備を行う。 また、響灘地区については、未利用の国有地の有効活用を進める。
V-1-(3)-③物流拠点の整備	9	⑧ ⑦ ⑪	北九州空港物流拠点化事業	空港企画課	北九州空港の将来ビジョンの柱の一つとして、九州・東九州・西中国3方向からの高速道路の結節点にある優位性を生かし、広域的な物流拠点空港を目指す。 また、路線誘致、集貨、創貨、機能強化の取組を推進することにより貨物増を図り、貨物増がこれら取組を加速させる好循環を構築することで、物流拠点化の実現化を図る。	航空貨物取扱量 ※中期目標改訂	—	目標 30,000 †	実績 15,384 †	達成率 51.3 %	42,000† (R6年度)	拡大	315,900	441,900	増額	19,200	やや遅れ	九州・西中国の物流拠点空港を目指して、高まる貨物需要をしっかりと受け止め、より広域的な集貨活動と路線安定化のため、輸出入通関等のソフト面や整備等のハード面を含めた空港機能強化に積極的に取り組む。 北九州港の施設整備については、引き続き、物流拠点化の進展を図るため、選択と集中を進めつつ、港湾機能の維持・強化を行うほか、老朽化が進む港湾施設について、健全な状態を維持し、北九州港の利便性を向上させるため、施設点検を着実に実行するとともに、適切な補修を行う取組を拡大させていく。 【中期目標の変更内容】 第2期北九州市まち・ひと・しごと創生総合戦略に掲げるKPIを統一目標として取り組むもの。 また、港湾計画については、令和5年度での計画改訂を目指し、引き続き長期構想の策定を行っていく。また、改訂計画の素案作成に着手する。	順調	北九州空港については、九州・西中国の物流拠点空港を目指して、高まる貨物需要をしっかりと受け止め、より広域的な集貨活動と路線安定化のため、輸出入通関等のソフト面や整備等のハード面を含めた空港機能強化に積極的に取り組む。 北九州港の施設整備については、引き続き、物流拠点化の進展を図るため、選択と集中を進めつつ、港湾機能の維持・強化を行うほか、老朽化が進む港湾施設について、健全な状態を維持し、北九州港の利便性を向上させるため、施設点検を着実に実行するとともに、適切な補修を行う取組を拡大させていく。 また、港湾計画については、令和5年度での計画改訂を目指し、引き続き長期構想の策定を行っていく。また、改訂計画の素案作成に着手する。

【Plan】 計画 / 【Do】 実施													【Check】 評価 / 【Action】 改善										
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					中期 目標	成果の 方向性	R3年度 予算額 (千円)	R4年度 予算額 (千円)	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R2年度 事業 評価	R4年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R2年度 局施策 評価	R4年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)			
						指標名等	現状値 (基準値)	R2年度	R3年度	R4年度													
	10	⑦ ⑩	港湾施設整備 事業（岸壁、 物揚場、道 路、橋梁等整 備）	整備 課	岸壁や道路等の 老朽化した港湾施 設について、適切 な改良を加え、機 能の維持・強化を 行うことにより、 施設利用者の安全 性確保及び利便性 向上を図る。	港湾施設利用者 の安全性確保及 び利便性向上	—	目標 単年度目標 設定なし	実績 —	達成率 —	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	港湾施 設利用 者の安全 性確保 及び利 便性向 上	継続	569,190	340,270	減額	5,150	やや 遅れ	老朽化した施設の改良を経 済的かつ効率的に行うため、 緊急性の高い施設から優先順 位をつけて予算要求し整備し ていく。		
	11	⑧ ⑦ ⑪	北九州港港湾 計画改訂事業	計画 課	港湾を取り巻く 社会経済情勢の 変化に対応する ため、「港湾計画」 の改訂を行い、北 九州港の更なる 発展を目指す。	港湾計画の改訂	—	目標 単年度目標 設定なし	実績 —	達成率 —	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	令和5年 度での 港湾計 画改訂	継続	70,000	110,000	増額	48,000	順調	令和5年度での港湾計画改 訂を目指し、前年度に引き続 き有識者・港湾利用者・行政 機関等の委員で構成される 「長期構想検討委員会」を実 施し、長期構想の策定を行 う。また、改訂計画の作成に 着手し、具体的な施設計画の 検討や航行安全調査を行う。		
	12	⑨ ⑩	競争力のある 港づくり関連 事業（維持管 理等）	港管 課 整備 課	老朽化が進む北 九州港の港湾施設 について、維持管 理を効果的かつ効 率的に行うこと で、物流基盤の機 能を維持し、北九 州港の競争力確保 を図る。	港湾施設の安全 性確保及び利便 性の維持・向上	—	目標 単年度目標 設定なし	実績 —	達成率 —	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	港湾施 設の安全 性確保 及び利 便性の 維持・向 上	継続	578,024	430,429	減額	115,075	順調	老朽化した港湾施設につい て、点検結果、利用状況を踏 まえ、緊急性の高い施設から 優先的に補修を行うことによ り、港湾施設の安全性の確保 を図る。		
V-1- (4)-② 再生可 能エネ ルギー ・基幹 エネ ルギー の創出 拠点の 形成	13	⑦ ⑧ ⑨ ⑬	響灘洋上風力 発電拠点化推 進事業	エネ ル ギー 産業 拠点 化推 進課	港湾空港局で は、響灘地区のポ テンシャルを活か し、平成23年度 より風力発電関連 産業の集積を図る 『グリーンエネ ルギーポートひび き』事業を進めて おり、本事業の更 なる推進にあっ ては、今後拡大が 見込まれる洋上風 力発電に対応した 環境整備が急務で ある。 そこで、響灘洋 上ウインドファ ームの形成をイン センティブに関 連産業の集積を進 め、国内における “風力発電関連産 業の総合拠点”の 形成を目指す。	響灘地区総合拠 点の産業用地利 用率	31.7% (R2年 度)	目標 単年度目標 設定なし	実績 31.7 %	達成率 —	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	80% (R6年 度)	継続	1,096,650	1,758,900	増額	119,500	順調	響灘洋上ウインドファーム 事業については、令和4年度 の着工に向けて、着実に事業 が進むよう、引き続き、事業 者等との連絡、調整、協議を 行う。 また、国と市が行っている 基地港湾の整備については、 響灘洋上ウインドファーム事 業の工事に間に合うよう、確 実に工事を進めていく。 さらに令和4年度は、国内 の洋上風力事業の普及拡大に 合わせて、基地港湾を継続し て利用してもらえるよう西日 本地域の洋上ウインドファ ームの市場開拓を継続すると ともに、産業拠点化に向け、 企業誘致や地元企業のサプ ライチェーンへの参入支援な どに取り組む。	順調	風力発電関連産業の総合拠 点形成に向けては、まず、響 灘洋上ウインドファーム事業 と基地港湾整備を着実に進 め、西日本地域のウインド ファーム事業を確実に取り込 むことで、基地港湾の将来に 向けた継続的な利用、関連産 業の定着を図る必要がある。 また、産業拠点化を進める ことで、更なる港湾の活性化 や雇用促進を図ることができ るため、積極的に取り組んで いく。

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善							
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R3年度 予算額 (千円)	R4年度 予算額 (千円)	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R2年度 事業 評価	R4年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R2年度 局施策 評価	R4年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)		
						指標名等	現状値 (基準値)	R2年度	R3年度	R4年度										中期 目標	
V-2-(1)-② 港湾の 国際競争力の 強化	17	⑧ ⑦ ⑪	北九州港集貨 航路誘致事業	物流 振興 課	国内外の荷動きや物流事業について、企業訪問などにより情報収集を行うとともに、セミナーの開催や様々な媒体を利用したPR及び官民一体となったポートセールス活動などを通じて、北九州港への集貨・航路誘致を行う。	北九州港海上出入貨物取扱量	9,998万 ↑ (H23年)	目標	前年 (9,860万) ↑ 増加	前年比増加	前年比増加	10,900 万↑ (R6年)	継続	164,464	123,088	減額	55,500	順調	航路誘致、集貨、創貨を推進するため、官民一体となったポートセールス活動を通じて北九州港の利用促進を図る。	順調	引き続き官民一体となって物流事業者や荷主企業、船社等に対してPRを行い、新規航路の誘致やモーダルシフトを推進するとともに、他港との競争において魅力ある仕組みづくりに取り組むことで、更なる北九州港の利用促進を図る。 また、自動車物流拠点形成に向けた事業者の誘致を継続するとともに、アジア地域との国際RORO航路の誘致を推進する。 その他、本港の競争力強化につなげるため、コンテナヤード等の整備を行うとともに、老朽化が著しいコンテナクレーンの更新を行う。 加えて、令和5年度での港湾計画改訂を目指し、引き続き長期構想の策定を行っていくほか、改訂計画の素案作成に着手する。
								実績	8,845 万↑												
								達成率	89.7 %												
								目標	7 航路	7 航路	7 航路										
18	⑧ ⑦ ⑪	北九州港RORO 航路誘致事業	物流 振興 課	完成自動車の輸出や自動車部品輸入等のシームレス物流に必要な国際RORO航路を誘致するとともに、更なる内航RORO航路の充実を図ることにより、臨海部における自動車関連産業等の物流拠点化の促進及び北九州港の取扱量拡大を図る。	RORO航路数	4航路 (R1年)	目標	7 航路	7 航路	7 航路	8航路 (R6年)	継続	12,625	11,309	減額	4,825	順調	自動車流通拠点の形成に向け、中古車輸出に対応する航路誘致を継続するとともに、アジア地域との国際RORO航路の誘致を推進する。国内RORO航路の誘致を促進することで更なる物流拠点化を図る。	順調	引き続き長期構想の策定を行っていくほか、改訂計画の素案作成に着手する。	
							実績	5 航路													
							達成率	71.4 %													
							目標	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし											
19	⑨ ⑪	太刀浦埠頭用 地整備事業	港管 課	太刀浦コンテナターミナル内の舗装の損傷が著しい箇所について補修を行うことで、荷役作業の安全性確保と効率化を図る。	荷役作業の安全性確保と効率化	—	目標	—	—	—	コンテナヤード等の整備 (R5年度)	継続	81,000	123,000	増額	3,650	順調	荷役作業の安全性確保と効率化を図り、本港の競争力につなげるため、コンテナヤード等の整備を行う。 令和4年度は引き続き舗装の損傷が著しく、利用者からの整備要望の高い第2コンテナターミナルの整備を行う。	順調	引き続き長期構想の策定を行っていくほか、改訂計画の素案作成に着手する。	
							実績	—													
							達成率	—													
							目標	単年度目標 設定なし	1基目着手	1基目竣工											
20	⑧ ⑦ ⑬	太刀浦第2 コンテナターミナル コンテナクレーン更新 事業	整備 課	耐用年数を超え、老朽化、劣化が顕著なため、安全、安定した設備を提供することを目的とし、コンテナクレーンの更新を行う。また利用促進を図るため、クレーンの大型化も行うもの。	クレーンの更新 基数	0基	目標	—	1基目着手	1基目竣工	2基目完成 (R6年度)	継続	499,200	819,000	増額	12,300	順調	太刀浦第2コンテナターミナルは、昭和62年に共用開始し、更新対象のクレーンも設置から耐用年数を大幅に超え、老朽化が著しい。このため、安全かつ安定した設備を提供することを目的とし、クレーン3基の更新を行う。さらに近年のコンテナ船大型化を踏まえ、コンテナターミナルの利用促進を図るため、クレーンの大型化も行うもの。 令和4年度は、令和3年度に着手した1基目の更新工事が竣工する。	順調	引き続き長期構想の策定を行っていくほか、改訂計画の素案作成に着手する。	
							実績	—													
							達成率	—													
							目標	単年度目標 設定なし	1基目着手	1基目竣工											

【Plan】 計画 / 【Do】 実施															【Check】 評価 / 【Action】 改善					
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R3年度 予算額 (千円)	R4年度 予算額 (千円)	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R2年度 事業 評価	R4年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R2年度 局施策 評価	R4年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	
						指標名等	現状値 (基準値)	R2年度	R3年度	R4年度										中期 目標
	21	⑧ ⑦ ⑪	北九州港湾 計画改訂事業	計画 課	港湾を取り巻く 社会経済情勢の 変化に対応する ため、「港湾計画」 の改訂を行い、北 九州港の更なる 発展を目指す。	港湾計画の改訂	—	目標 単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	令和5年 度での 港湾計 画改訂	継続	70,000	110,000	増額	48,000	順調	令和5年度での港湾計画改訂を目指し、前年度に引き続き有識者・港湾利用者・行政機関等の委員で構成される「長期構想検討委員会」を実施し、長期構想の策定を行う。また、改訂計画の作成に着手し、具体的な施設計画の検討や航行安全調査を行う。		
V-2- (1)-③ 環境配 慮型物 流の推 進	22	⑧ ⑦ ⑪	北九州港集貨 航路誘致事業	物流 振興 課	国内外の荷動き や物流事業につ いて、企業訪問な どにより情報収集 を行うとともに、 セミナーの開催 や様々な媒体を 利用してのPR及 び官民一体とな ったポートセー ルス活動などを 通じて、北九州 港への集貨・航 路誘致を行う。	北九州港海上出 入貨物取扱量	9,998万 ↑ (H23年)	目標 前年 (9,860万) ↑ 比増加	前年比増加	前年比増加	10,900 万↑ (R6年)	継続	164,464	123,088	減額	55,500	順調	航路誘致、集貨、創貨を推進するため、官民一体となったポートセールス活動を通じて北九州港の利用促進を図るとともに、モーダルシフトを推進する。	順調	引き続き官民一体となって物流事業者や荷主企業、船社等に対してPRを行い、新規航路の誘致やモーダルシフトを推進するとともに、他港との競争において魅力ある仕組みづくりに取り組むことで、更なる北九州港の利用促進を図る。
V-3- (2)-① 都市基 盤・施 設の有 効活用	23	⑧ ⑪	北九州空港新 規路線就航促 進事業	空港 企画 課	北九州市民の利 便性向上のため、 国内・国際定期 便の新規就航及 び既存路線の定 着を図ることを 目標に、路線誘 致・利用促進活 動を行う。	国際定期路線の 維持・拡大	—	目標 7 路 線	3 路 線	3 路 線	3路線 (R4年 度)	継続	49,660	24,830	減額	88,950	遅れ	新型コロナウイルス感染症の影響により運休となっている路線の就航再開に向けて、航空会社に対する運航経費の助成や、ターゲットを明確にした広報など効果的な集客を行う。 【中期目標の変更内容】 現在、コロナ禍の影響により2路線が運休（羽田線のみ運航）となっているが、令和4年度も依然として航空需要の回復が期待できないため、2路線の就航（運休中の路線のうち、1路線の復便）を目標としたもの。		
	24	⑧ ⑦ ⑪	北九州港集貨 航路誘致事業	物流 振興 課	国内外の荷動き や物流事業につ いて、企業訪問な どにより情報収集 を行うとともに、 セミナーの開催 や様々な媒体を 利用してのPR及 び官民一体とな ったポートセー ルス活動などを 通じて、北九州 港への集貨・航 路誘致を行う。	北九州港海上出 入貨物取扱量	9,998万 ↑ (H23年)	目標 前年 (9,860万) ↑ 比増加	前年比増加	前年比増加	10,900 万↑ (R6年)	継続	164,464	123,088	減額	55,500	順調	航路誘致、集貨、創貨を推進するため、官民一体となったポートセールス活動を通じて北九州港の利用促進を図るとともに、充実した都市基盤を活用し更なる物流拠点を目標とする。	やや遅れ	引き続き官民一体となって物流事業者や荷主企業、船社等に対してPRを行い、新規航路の誘致やモーダルシフトを推進するとともに、他港との競争において魅力ある仕組みづくりに取り組むことで、更なる北九州港の利用促進を図る。

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善						
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R3年度 予算額 (千円)	R4年度 予算額 (千円)	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R2年度 事業 評価	R4年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R2年度 局施策 評価	R4年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	
						指標名等	現状値 (基準値)	R2年度	R3年度	R4年度										中期 目標
VI-3-(1)-② 適正な 廃棄物の 処理	25	⑨ ⑩ ⑫	響灘東地区処分場整備事業	整備課	北九州港内の航路・泊地の整備及び維持から発生する浚渫土砂、市民生活や市内中小企業の産業活動から発生する廃棄物等を最終的に処分する海面処分場（響灘東地区処分場）を整備する。	廃棄物処分場の確保	目標	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	廃棄物の受入開始 (R5年度)	継続	503,000	1,361,000	増額	39,500	順調	引き続き目標年次までの完成を目指し、計画的な事業の進捗を図る。	順調	市民生活に不可欠な廃棄物処分場の整備事業であり、確実に事業を進めていく。
							実績	—												
						土砂処分場の確保	目標	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	浚渫土砂の受入開始 (R5年度)									
							実績	—												
VII-2-(2)-① 充実した物流 基盤を活用した物流 振興	26	⑧ ⑦ ⑪	北九州空港物流拠点化事業	空港企画課	北九州空港の将来ビジョンの柱の一つとして、九州・東九州・西中国3方向からの高速道路の結節点にある優位性を生かし、広域的な物流拠点空港を目指す。 また、路線誘致、集貨、創貨、機能強化の取組を推進することにより貨物増を図り、貨物増がこれら取組を加速させる好循環を構築することで、物流拠点化の実現化を図る。	航空貨物取扱量 ※中期目標改訂	目標	30,000 †	30,000 †	30,000 †	42,000† (R6年度)	拡大	315,900	441,900	増額	19,200	やや遅れ	九州・西中国の物流拠点空港を目指して、高まる貨物需要をしっかりと受け止め、より広域的な集貨活動と路線安定化のため、輸出入通関等のソフト面や整備等のハード面を含めた空港機能強化に積極的に取り組む。 【中期目標の変更内容】 第2期北九州市まち・ひと・しごと創生総合戦略に掲げるKPIを統一目標として取り組むもの。	順調	北九州空港については、九州・西中国の物流拠点空港を目指して、高まる貨物需要をしっかりと受け止め、より広域的な集貨活動と路線安定化のため、輸出入通関等のソフト面や整備等のハード面を含めた空港機能強化に積極的に取り組む。 また、海上貨物については、引き続き官民一体となって物流事業者や荷主企業、船社等に対してPRを行い、新規航路の誘致やモーダルシフトを推進するとともに、他港との競争において魅力ある仕組みづくりに取り組むことで、更なる北九州港の利用促進を図る。
							実績	15,384 †												
	27	⑧ ⑦ ⑪	北九州港集貨航路誘致事業	物流振興課	国内外の荷動きや物流事業について、企業訪問などにより情報収集を行うとともに、セミナーの開催や様々な媒体を利用したPR及び官民一体となったポートセールス活動などを通じて、北九州港への集貨・航路誘致を行う。	北九州港海上出入貨物取扱量	目標	前年 (9,860万+)比増加	前年比増加	前年比増加	10,900万+ (R6年)	継続	164,464	123,088	減額	55,500	順調	航路誘致、集貨、創貨を推進するため、官民一体となったポートセールス活動を通じて北九州港の利用促進を図るとともに、充実した都市基盤を活用し更なる物流拠点を目指す。		
							実績	9,998万+ (H23年)	8,845万+											

